



隔週木曜、豊田市内のNPO法人や企業経営者が集まり、困り事を話し合うオンライン会議「おたがいさま会議とよた」が開かれている。さまざまな分野の参加者が互いに助け合い、課題の解決につなげていく場だ。会議代表も務める豊田青年会議所（JC）の鈴木聖人専務理事（三）は「参加しやすく、参加者の抱える問題やそれに対する意見を出しやすい場所をつくりたい」と話す。

一昨年、同市の中山間地域で電力小売り事業に取り組み企業「三河の山里コミュニティパワー（MYパワー）」から誘いを受けて、豊田JCの前理事長鈴木悠介さん（三）が県内のNPOや市民団体による意見交換の場「NPOおたがいさま会議」に参加した。同じような仕組みを豊田でも

パートナーシップで目標を達成しよう

17 パートナーシップで目標を達成しよう



おたがいさま会議とよた 豊田

困り事、話し合って解決

つくる」と準備を始め、豊田JCのネットワークを使って初めて開いた会議には約四十人が参加した。



おたがいさま会議に参加するJCの鈴木専務理事（豊田）

事務局は豊田JCとMYパワー、名古屋市の障害者支援施設「日本福祉協議機構」が務める。メンバーは企業経営者や豊田市職員など約百人。会議冒頭でその日のメインスピーカーが困り事を発表し、参加者が数人ずつ班に分かれて解決策を話し合い提案する。

一月二十七日に開かれた十三回目の会議は二十一人が参加。同市渡刈町の環境学習施設「エコット」の担当者が「新型コロナの影響で来館者が減少している。今後は企業と協力して施設をPRしたい。ガイドボランティアも高齢化が進んでいる」と課題を話した。参加者からは「施設内の多目的室をもっと活用してみたい」「脱炭素について学ぶセミナーを開いては」などの意見が出た。

鈴木専務理事は「参加者の抱える問題を多くの人に知ってもらい、誰かの意見が解決につながれば」と話した。

（飯下千晶）